

平成23年度稲作ごよみ

おいしいお米 **うるち玄米1等比率90%以上**

なのはなブランド

「八町米」

- ① 適正水分(14.5~15.0%)であること
- ② 整粒歩合が高いこと(80%以上)
(胴割粒、未熟粒、被害粒が少ないこと)
- ③ 白度が高いこと(玄米白度20)
- ④ 蛋白含量が低いこと(精米蛋白5.5%)
- ⑤ 生産履歴記帳とGAP徹底

異常気象にも負けない高品質な

「なのはな米」の生産に向けて

~こまめな管理で、高い品質・収量を確保しよう~

なのはな農業協同組合
なのはな農協地区農業技術者協議会

月日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月~3月																		
水管理	深水	浅水(チラ干しにしない)	中干し	間断かん水	(水を切らさない)	落水は急がない																			
栽培管理のポイント	丈夫な苗をつくる	太い分けつを早くとる	根を十分に張らす	倒伏させずに、登熟を高める	おいしく仕上げる	土づくり																			
おろつろロツクカンの栽培管理ポイント	<p>早播きはしない</p> <ul style="list-style-type: none"> ● かん水の調整で丈夫な苗にする ● ハウス内の排水を徹底する ● 一箱当たり120gのうるちまででガッチリ苗にする <p>浸種から播種までのスケジュール</p> <table border="1"> <tr> <td>浸種</td> <td>4月8日頃</td> <td>4月16日頃</td> </tr> <tr> <td>播種</td> <td>4月18日頃</td> <td>4月25日頃</td> </tr> <tr> <td>田植</td> <td>5月10日</td> <td>5月15日</td> </tr> </table> <p>温度管理の目安</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>生育期</th> <th>緑化期</th> <th>硬化期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>育苗日数</td> <td>2~3</td> <td>15~17</td> </tr> <tr> <td>温度</td> <td>昼 25~30 夜 10~15</td> <td>20~25 10℃を下回らぬ</td> </tr> </tbody> </table> <p>除草剤の効果を高める6つのポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 代かきはていねいに行い圃場の均平に努める。 2. 代かき後に気温が高いと、雑草の発生・生育が早まるので遅れずに散布する。 3. 代かきから田植えまでの期間を長くしないようにする。 4. 湛水状態で散布する場合は、しっかりと水をあてる。 5. 除草剤散布後は、4~5日間程度湛水状態を保つ。 6. 散布後7日間は「落水」や「かけ流し」をしない「止水管理」とする。 <p>出穂後20日間湛水管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 穂揃いの葉色を4.2~4.5に誘導(砂壌土地帯は4.5) ● 二回目の穂肥は一回目穂肥を施用した一週間後を目安に ● 一回目の穂肥は慎重に ● 穂肥時期までに葉色を3.6に誘導 ● 土壌の硬さは、足跡の深さで3cm程度とする ● 中干し後は出穂まで間断かん水を励行する ● 畦畔農道等の草刈りを徹底する ● 田面に亀裂が入り、足跡が1~2cm沈む程度まで強くならないように注意する ● 中干しの程度は、土壌条件によって調整し ● 一株の茎数が16~17本程取れたら中干しを始める ● 中干しは湛水管理にそなえて確実に ● 中干し効果の向上・かん排水の効率化をはかる ● 中干し前に必ず溝を切る! <p>出穂後20日間湛水管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ● カドミウムの吸収抑制 ● 稲体の活力維持 ● (カメムシ類が多発時の場合。但し、早生は必ず防除する) ● 傾穂期のトレボンスター粉剤によるカメムシ類防除(穂いもち、ウツカ、ヨコバイ、カメムシ類防除) ● 穂揃期のゲットワン粉剤による防除(穂いもち・紋枯病) ● 出穂直前のブラシンバリダ粉剤による防除(穂いもち・紋枯病) <p>堆肥・土壌改良資材等を施用し、しっかりと土づくりを行なう</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 有機物の施用 <ul style="list-style-type: none"> ● 牛・豚ふん堆肥 1~2t/10a ● 発酵けいふん 150kg/10a ● 稲わらは全量すき込む。 2 土壌改良資材の施用 <ul style="list-style-type: none"> ● 珪酸石灰 100kg/10a ● スーパー活源 60kg/10a ● シリカロマン 60kg/10a ● シリカイクス45 40kg/10a 3 深耕し <ul style="list-style-type: none"> ● 秋耕しと春耕しの2回掛けが効果的 <p>1.9mmの網目を使用し、細粒や屑米の混入を防止し良質米の適正な乾燥で水分「14.5~15.0%」に仕上げよう</p> <p>粗黄化率85~90%頃に刈取る</p> <p>刈取り7日前までの間断かん水を徹底する</p> <p>※特にフエーンが予想される場合は事前に入水する。</p> <p>アカヒゲホソミドリカスミガメ トゲシラホシカメムシ 斑点米 青点線内の2次枝梗籾が黄化した時</p>							浸種	4月8日頃	4月16日頃	播種	4月18日頃	4月25日頃	田植	5月10日	5月15日	生育期	緑化期	硬化期	育苗日数	2~3	15~17	温度	昼 25~30 夜 10~15	20~25 10℃を下回らぬ
浸種	4月8日頃	4月16日頃																							
播種	4月18日頃	4月25日頃																							
田植	5月10日	5月15日																							
生育期	緑化期	硬化期																							
育苗日数	2~3	15~17																							
温度	昼 25~30 夜 10~15	20~25 10℃を下回らぬ																							

土壌にあった施肥でおいしい米づくり

本田施肥設計例(10a当たり)(有機含有肥料を施用しおいしい米(食味値80以上)にする設計例です。)

品名	土質	地力増強資材		基肥・早期追肥				中間追肥		穂肥								
		発酵鶏糞	土壌改良資材	設計例I	設計例II	設計例I	設計例II	設計例I	設計例II	設計例I	設計例II	設計例III						
新大正糯	砂質田	右表参照	右表参照	35kg	30kg	30kg	10kg	25kg	10kg	10kg~20kg	20kg~40kg	-	10kg以内	12kg以内	-	10kg以内	12kg以内	20kg
	壤質田	〃	〃	30kg	25kg	25kg	10kg	20kg	10kg	10kg~20kg	20kg~40kg	-	10kg以内	12kg以内	-	10kg以内	12kg以内	15kg
	粘質田	〃	〃	25kg	20kg	20kg	10kg	15kg	10kg	10kg~20kg	20kg~40kg	-	10kg以内	12kg以内	-	10kg以内	12kg以内	15kg
てんこもり	砂質田	〃	〃	45kg	40kg	40kg	10kg	35kg	10kg	10kg~20kg	20kg~40kg	10kg	13kg	-	10kg	13kg	-	-
	壤質田	〃	〃	40kg	35kg	35kg	10kg	30kg	10kg	10kg~20kg	20kg~40kg	10kg	12kg	-	10kg	12kg	-	-
	粘質田	〃	〃	35kg	30kg	30kg	10kg	25kg	10kg	10kg~20kg	20kg~40kg	10kg	12kg	-	10kg	12kg	-	-
一発基肥	砂質田	〃	〃	なのはな有機一発基肥1号	40kg	なのはな有機一発基肥1号	45kg	20kg	BBPKケイ酸20kg~40kg	一発基肥肥料は田植時期や土壌によって施用量を減減しましょう。また、リン酸分及び加里成分が不足がちになりますので必ずエスアイ加里特号またはBBPKケイ酸を施用するようにしましょう。								
	壤質田	〃	〃	なのはな有機一発基肥2号	35kg	なのはな有機一発基肥2号	40kg	20kg	BBPKケイ酸20kg~40kg									
	粘質田	〃	〃	なのはな有機一発基肥2号	30kg	なのはな有機一発基肥2号	35kg	20kg	BBPKケイ酸20kg~40kg									
てんこもり	砂質田	〃	〃	てんたかくはLPS早生専用	45kg	てんたかくはLPS早生専用	50kg	20kg	BBPKケイ酸20kg~40kg									
	壤質田	〃	〃	てんこもりはLPSS晩生専用	40kg	てんこもりはLPSS晩生専用	45kg	20kg	BBPKケイ酸20kg~40kg									
	粘質田	〃	〃	てんこもりはLPSS晩生専用	35kg	てんこもりはLPSS晩生専用	40kg	20kg	BBPKケイ酸20kg~40kg									

※大豆跡田は、基肥量をN成分で5~7割減らしたり、倒伏に強い品種の作付に努めましょう。又、土壌改良資材を必ず施用しましょう。

適正な農薬使用で安心な米づくり

病害虫防除体系

水稲除草体系

農薬の適正使用について ~農薬は使用基準を守り、正しく使いましょう!~

- 農薬の使用前に、ラベルを見て作物に登録のあることを確認し、農薬の使用基準を必ず守って使用して下さい。
- 散布時期、散布量及び散布回数などの使用基準を遵守し、農薬の残留基準値(0.01ppm)を超えないよう適正に使用する。
- 散布は周囲への飛散を防ぎ、適用作物以外の作物にかからないように、風向きや風速に注意しましょう。

一般的水稲基本防除体系

体系的な使用例

一発処理

雑草の多い圃場

雑草が残った場合

広葉雑草が残った場合
粒状水中MCP(収穫60日前まで)
バサグラン粒剤(収穫60日前まで)

ノビエが残った場合
4.0葉期まで
クリンチャー1キロ粒剤(但し収穫30日前まで)
6.0葉期まで
クリンチャーEW液剤(但し収穫30日前まで)

ノビエと広葉が残った場合
ワイドアタックD1キロ粒剤(但し収穫60日前まで)
クリンチャーバSME液剤(収穫50日前まで)

なのはな米の仕上げはカントリーで!

1. 最新の乾燥、調製方式により、良質米の出荷に努めています。
 - 均一で高品質、おいしい米に仕上がります。
 - 消費者へ今摺米として出荷できます。
2. 生産コストの低減につながります。
 - 個人で乾燥機や粃すり機を持たずにすみ、農機具代が低減できます。
3. 作業の省力化ができます。
 - 乾燥、粃すり、袋詰、出荷作業等から解放されます。
 - コンバインの刈取能力を最大に活かせ、刈取期間が短縮できます。